

本市の不登校の現状と対策について

四電 英夫



るか伺う。

〔質問〕近年不登校の児童・生徒が増えているとの報道がある。病気や経済的などの理由以外で年間30日以上欠席した場合不登校とされているが、本市における不登校児童・生徒数の推移を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕令和5年度は小学校で63人、中学校で57人、合計120人だったが、令和6年度は小学校で53人、中学校で61人、合計114人と減少に転じ、令和7年度は小学校で31人、中学校で43人、合計74人とさらに減少傾向が続いている。

〔質問〕不登校の要因をどのように分析しているか伺う。

〔答弁〕〔教育部長〕不登校の要因としては学習のつまずきや友人関係のトラブル、集団生活になじめない。生活リズムの乱れや家庭内でのトラブルによるストレスなど複雑な要因が関係している。

〔質問〕欠席が続く児童・生徒への対応を伺う。

〔答弁〕〔教育専門監〕教員による家庭訪問、放課後や別室への登校を行なっている。また子ども心のケアハウスも大きな役割を果たしている。教育支援センターのスーパーバイザーが全ての小中学校を訪問し助言している。さらに学びの多様化学校「白石きぼう学園」では現在38人の児童・生徒が安心できる居場所として基礎学力や社会

性を身につける学びの場を提供している。

〔質問〕スクールカウンセラー配置の成果を伺う。

〔答弁〕〔教育部長〕市内全校にスクールカウンセラーを配置しており、児童・生徒や保護者への相談のほか、教員に助言や支援を行なっている。カウンセラーが専門的視点で支援を行うことにより、児童・生徒の心理的負担が軽減され、落ち着いて学習や学校生活に取り組みやすくなったとの報告を多数受けている。

成果を伺う。

〔答弁〕〔教育部長〕課題を抱える児童・生徒や保護者との面談、福祉・医療などの関係機関と連携して支援を行なっている。その結果、安心できる居場所と安定した学校生活が送れるようになったとの報告を受けている。

二次元コードから各議員の質問動画へアクセスできます。

ナフサ不足による本市事業者への影響について

佐藤 龍彦



口について伺う。

〔質問〕ナフサ不足の本事業者への影響についての認識を伺う。

〔答弁〕〔商工観光課長〕ナフサ不足の影響については、国の説明では、全体として直ちに必要量が不足している状況ではないとの見解が示されているが、建設資材、農業用資材、医療用資材などの分野で、価格の上昇や納期の長期化といった影響が出ていると聞いている。市内でも流通状況は十分に回復してはおらず、市内事業者の経済活動に影響があるものと認識している。

〔質問〕事業者の相談窓口について伺う。

〔答弁〕〔商工観光課長〕ナフサ不足や、これに伴う原材料価格の高騰などの影響を受けた事業者に対しては、国や県において、各相談窓口が設けられている。具体的には、経済産業省や国土交通省などの特別相談窓口、宮城県信用保証協会の相談窓口、県の営農相談窓口など幅広い機関で設けられている。市としても、各担当課への相談に対応するとともに、関係機関と連携しながら、内容に応じて適切な相談先や支援制度を案内していく。

格の高騰は、中東情勢に起因する全国的かつ広域的な課題であり、国や県において制度融資や信用保証、価格転嫁の支援、各種補助制度など幅広い事業者を対象とした支援制度が既に整備されている。市としては、まず国・県の支援制度を活用いただきながら、必要に応じて白石市中小企業振興資金制度など、市の支援制度を活用いただきたいと考えている。

〔質問〕事業者への今後の対応を伺う。

〔答弁〕〔市長〕今後もナフサをはじめとする原材料の供給状況や価格動向を注視し、関係機関と連携を図りながら、市内事業者への各種支援制度の活用に向けた情報提供を行なっていく。

〔その他の質問〕

◎ エアコン購入・設置費用の助成について

◎ 本市の教育及び教育環境について